

高齢化社会と向き合って

旭川市立旭川中学校 三年 佐賀 結衣

「少子高齢化」

ニュースではよく耳にし、公民の授業で学習されるほど大きく取り上げられるようになった日本の人口問題だ。少子高齢化が進行すると、一人の高齢者を支える若者が減る。これからの未来、超高齢化社会が進行していく中で、高齢者を支えていくために、私たちは何をすべきだろう。

『戦後、日本は栄養不足や伝染病の予防、さらに生活の援助が必要な状態だった。この時期、政府は急速に社会福祉施設を整備し、国民皆保険や皆年金制度を導入した。』

この時、本格的に構築された制度が「社会保障」だ。社会保障とは、私たちの安心と生活の安定を支える仕組みのことであり、高齢者を支える仕組みの一つでもある。社会保障の例として、医療・介護・年金がある。医療では、けがや病気で病院にかかった時にかかるお金を税金で一部負担している。私は、去年病気で入院したときの医療費を健康保険と子ども医療費で負担してもらった。今考えてみると、社会保障に助けられたと思う。私は、消費税が上がったことに対し、不満に思っていたが、それは私自身を助けるために役立っていることに気付いた。介護では、訪問介護や福祉用具のレンタルなど、介護に必要なサービスを受けることができる。私の祖父は、病気で歩けなくなり、介護が必要になった。この時、入浴の訪問介護や歩行器、家に手すりをつけるなどの介護サービスを必要とした。この時にかかる大きな費用を負担してくれたのも社会保障だ。社会保障は、助けを必要とする当事者にその家族、つまりすべての国民を助けている。私たちを支えている社会保障。これが成り立っているのは、私たちが納めている『税金』があるからだ。

しかし、高齢化で高齢者が増えると、医療や介護の社会保障がより必要になる。すると、それに伴い、私たちが納める税金もより必要になる。だが、少子化で働き手である若者が減ると、納めることのできる税金も減ってしまう。

「必要な税は増えるのに、納める税は減る一方」こうなると、社会保障が成り立たなくなってしまうのではないか。これは重要な問題だろう。超高齢化社会が予測される未来こそ、社会保障は必要だ。これからも社会保障を成り立たせるために私たちは何ができるのだろうか。

これからの日本、少子高齢化を止めることはできない。この状況と一生付き合っていくために、まずは税金に対する意識を変えるべきだ。余計な支出ではない。私たちが自身を支えるためにあるのだ。

快適なこの世の中は、私たちで支えあつてできたものだ。これからの超高齢化社会、働き手になる私たちで高齢者を支えていこう。